



日本財団パラリンピックサポートセンター・ 日本福祉大学共催シンポジウム ～パラリンピックとジェンダー～

2年後に近づいた東京2020パラリンピック競技大会は、共生社会実現のための触媒として大きな期待が寄せられている。その一方で、パラリンピックに関連したさまざまな面において、「乖離」や「格差」の存在も指摘されている。

このシンポジウムでは、パラリンピックにおけるジェンダー間の格差の背景と現状を分析し、今後取り組むべき課題を整理することで、女性アスリートの活躍ひいては社会における女性の活力の発揮に寄与することを目的とする。

日時 2018年5月26日（土） 13:30 – 16:40（受付開始13:00）

会場 日本財団ビル2階大会議室 東京都港区赤坂 1-2-2

言語 日本語、英語（日英同時通訳つき）

参加費 無料

お問い合わせ・お申込み

メールの件名を「5月26日シンポジウム参加申込み」とし、（1）お名前（2）フリガナ（3）ご所属・役職を明記してresearch@parasapo.tokyo宛にメールにて5月23日（水）までにお申し込みください。返信を以て受付とします。定員になり次第、締め切らせていただきますことをご了承ください。

☆入退場時の移動および情報保障のサポートをご希望の方は、お申込みの際にお申し出ください。

日本財団パラリンピックサポートセンター パラリンピック研究会 担当 中島・矢島・池田
Tel : 03-5545-5991（平日9:00-17:00）

主催：公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター
共催：日本福祉大学
協力：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

プログラム

基調講演	13:35 - 13:55	「ジェンダーの視点からスポーツを考えるースポーツ・フォア・オール 社会に向けて」 伊藤 公雄（京都産業大学）
第1セッション	13:55 - 15:15	「パラリンピックへの女性の参加に関する国内外の現状と課題」 安岡 由恵（日本パラリンピック委員会） 「アメリカにおける女性のパラリンピックへの参加」 ロビン・ケットリンスキー（ニューヨーク市立大学） 「韓国における障がい者スポーツとパラリンピックへの女性の参加」 チョン・ヒェザ（韓国パラリンピック委員会） 「パラリンピック報道におけるジェンダー格差」 斉藤 寛子（朝日新聞）
第2セッション	15:30 - 16:30	総合討論 全パネリスト モデレーター：藤田 紀昭・竹村 瑞穂（日本福祉大学）

スピーカーは都合により予告なく変更となる場合がございます

登壇者プロフィール（登壇順）

伊藤 公雄（Kimio Ito） 文化社会学・ジェンダー論専攻、京都産業大学現代社会学部教授、京都大学名誉教授・大阪大学名誉教授、日本学術会議会員。元日本スポーツ社会学会会長、元関西社会学会会長、元日本ジェンダー学会会長など。主な著書に、『光の帝国・迷宮の革命ー鏡のなかのイタリア』、『<男らしさ>のゆくえ』、『ジェンダーの社会学』、『「戦後」という意味空間』などがある。

安岡 由恵（Naoe Yasuoka） 日本障がい者スポーツ協会強化部国際課長。社会福祉法人太陽の家管理部国際課、フェスピック連盟事務局大分国際車いすマラソン大会事務局などを経て、2001年より公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、日本パラリンピック委員会勤務。2017年より東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会国際渉外部パラリンピック担当課長兼任。

ロビン・ケットリンスキー（Robin Kietlinski） 米国・ニューヨーク市立大学ラガーディアコミュニティ・カレッジ准教授（歴史学）。博士号（ペンシルベニア大学）。専門は東アジア研究。研究テーマは主にオリンピックに関する日本社会とスポーツの歴史的交差。著書に『Japanese Women and Sport: Beyond Baseball and Sumo（日本女性とスポーツ:野球と相撲の裏にあるもの、）』（Bloomsbury Academic、2012）などがある。

チョン・ヒェザ（Chun Hea ja） 韓国パラリンピック委員会事務局長。博士号（韓国体育大学）。専門は特殊体育・測定評価。フェスピック開発委員、韓国パラリンピック委員会女性スポーツ委員長、国際パラリンピック委員会女性スポーツ委員会委員を務めた。

斉藤 寛子（Hiroko Saito） 朝日新聞東京社会部記者。2006年入社。地方総局、秘書部を経て、現職。12年ロンドン・パラリンピックをきっかけに、リオ大会、平昌大会を取材。17年はトルコ・サムスのデフリンピックも現地で取材した。連載企画「つながる空の下」では、2020年東京大会に向けて、パラスポーツだけでなく教育、障害者福祉など多角的な視点で共生社会を考える記事を掲載している。

藤田 紀昭（Motoaki Fujita） 日本福祉大学スポーツ科学部部長。筑波大学大学院体育研究科修了。徳島文理大学専任講師、同志社大学スポーツ健康科学研究科教授などを経て、現職。研究分野は、体育学、障害者スポーツ論。「地域における障害者スポーツの普及促進に関する有識者会議」座長を務め、現在、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会技術委員会委員。

竹村 瑞穂（Mizuho Takemura） 日本福祉大学スポーツ科学部准教授。筑波大学大学院人間総合科学研究科博士一貫課程単位取得満期退学。2012年筑波大学にて博士号を取得。早稲田大学スポーツ科学学術院助手、同助教を経て現職。研究分野は、スポーツ倫理哲学、身体倫理哲学。全日本柔道連盟コンプライアンス委員会委員。国際スポーツ哲学学会HAFS委員会委員。